

修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	生涯看護学分野 老年看護学領域	学籍番号 氏 名	217605 竹村 和誠
論文題目	地域包括ケア病棟看護師の高齢者への退院支援の実践状況と関連要因		
キーワード	地域包括ケア病棟 看護師 高齢者 退院支援 関連要因		
<p>【背景】 我が国は高齢化に伴う医療や介護の需要増加に対して地域包括ケアシステムの構築を重要な視点と示しており、医療現場では在宅復帰支援の機能を持つ地域包括ケア病棟が2014年に新設された。地域包括ケア病棟の看護師には高齢者が在宅生活を継続するための退院支援を実践する役割があるが、退院支援の実践状況を詳細に示した研究はみられず、退院支援実践に関連する要因も明らかにされていない。</p> <p>【研究目的】 地域包括ケア病棟に勤務する看護師の高齢者への退院支援の実践状況を明らかにし、退院支援実践と関連する個人的要因や職場環境要因を明確化することによって、高齢者への効果的な退院支援について検討する。</p> <p>【研究方法】 東海北陸厚生局管内の地域包括ケア病棟に所属する看護師968名を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。587名から回収し（回収率60.6%）有効回答とした。質問項目は個人的属性として基本属性・仕事意欲、職場環境、病棟看護師の退院支援実践自己評価尺度（以下、DPWN）、自由記述として退院支援で困難と感じている内容とした。DPWNと関連が予測される個人的属性・職場環境について、t検定、一元配置分散分析、ピアソンの積率相関分析を行い、有意差または関連が認められた変数を説明変数、DPWNを目的変数として重回帰分析を行った。三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得て実施した（通知書番号：180502）。</p> <p>【結果】 対象者の平均年齢は40.26歳、看護師経験年数16.15年、地域包括ケア病棟での経験年数1.68年であった。退院支援の実践状況は一般病棟看護師に比べ高値を示したが、実践内容は一般病棟と同様に多職種連携や社会資源の活用は実践しづらい現状がみられた。DPWNは看護師の個人的要因である[看護師経験年数][地域包括ケア病棟での経験年数][職位][仕事意欲]と関連があり、職場環境要因の[退院調整カンファレンス以外に多職種と情報共有する機会]とも関連がみられた。また、高齢者の退院支援において困難と感じている内容として【在宅生活をふまえた高齢者の入院生活の支援】【住み慣れた地域での生活を継続するための退院支援】【家族の理解や協力を得るための調整】【医師やケアマネジャー等との多職種連携】【地域包括ケア病棟における看護師の役割遂行】の5カテゴリーを抽出した。</p> <p>【考察】 高齢者への退院支援実践には看護師としての経験や仕事意欲が影響することが示されたため、成功体験の共有等により看護師の仕事意欲を高める必要があると考える。また、多職種連携や社会資源の活用を看護師が意識し退院支援を行う環境の調整、多職種による組織的な高齢者の意思決定支援、地域における諸機関と情報を共有する体制づくり、地域包括ケアシステムに関する知識を得るための院内外の研修の充実が重要であり、より効果的な退院支援実践につながると思われる。</p>			